

農事組合法人 舟形アグリ



1 現在の経営状況等

(1) 経営理念、目標

1. 大地の健康，作物の健康，人の健康「三健農業」
2. 環境に優しく，安心安全な作物を作る農業
3. 地域農業に感動を与える農業を実践する

(2) 栽培技術の特長(直播，水耕，認証等)

- 平成28年に宮城県奨励品種に指定された小麦「夏黄金」など，新品種の栽培に積極的に取り組んでいる。
- 麦，大豆，水稻の2年3作のブロックローテーションに取り組んでいる。

(3) 販売面での特長

- 米・大豆・麦等，全量系統出荷である。

(4) 経営組織の特長

- 食品加工部門の「舟形アグリ食品販売株式会社」と連携し，6次化に取り組み，油麩や麺類，大豆加工品に自社で栽培した生産物を活用している(小麦，大豆等はJAから買い戻している)。

(5) 経営管理の特長

- 庶務や会計処理については担当者を置き，適切な事務処理に努めている。また，財務，税務管理については顧問税理士に依頼している。

(6) その他，特筆すべき事項

- 地域の協力を得ながら農地の集約を進め，約100haの基盤整備面積に対して約85%の集積率となっている。
- 消費者の方と積極的に情報交換を行うとともに，地産地消など食育にも積極的で，「顔」の見える生産物づくりを行っている。

2 法人設立までの変遷(取り組み経過等)

(1) 法人設立の動機，きっかけ

- 高齢化が進み，生産者の減少が加速していく状況であったため，地域農業の担い手組織として，平成22年にこれまでの舟形アグリ生産組合から法人化。
- 動機として，法人の方が，新しい事業に取り組みやすく，雇用面でも有利な点がある。

(2) 法人化に至る経過等

21世紀型圃場整備事業が平成8年から始まったが，地域の兼業農家では水田作業の大半を高齢者が担っており，担い手が不足していた。そのため，平成10年に舟形アグリ生産組合を設立し，集落の水田，転作作業を引き受け開始した。

需要の伸びない転作作物の消費拡大のため，小麦，大豆の加工を開始し，平成16年に一般販売を開始。平成18年から加工部門を舟形アグリ食品販売株式会

経営のプロフィール

農業地帯	平地農業地域
組織形態	ぐるみ型
エリア	集落
農地集積率	85%

経営概要

水稻：18.0ha，大麦：16.0ha，小麦：12.0ha，大豆：36.0ha

主な施設・機械の保有

機械格納庫(233㎡，200㎡)，トラクタ(105ps・76ps・70ps)6台，自脱コンバイン(水稻用6条)1台，汎用コンバイン(麦・大豆用210cm)2台，田植え機(8条)2台，乾燥調整施設，ブームスプレーヤ，トラック等

構成員等

構成員，組合員：4名
役員(理事，取締役等)：4名
従業員(常時雇用)：1名
パート：4名

法人設立年月日

平成22年5月10日

認定農業者認定年月日

平成27年6月4日

資本金

300万円(現在)

販売額等

販売額：1,844万円(平成29年度)
収入算入交付金等：5,428万円(平成29年度)

役員名

代表者：代表理事組合長 佐々木 茂

補助事業，制度資金活用実績

経営体育成支援事業，農業近代化資金

過去の表彰

東北農政局土地改良事業地区「営農推進功労者表彰」(平成17年度)

社として設立。

生産部門も拡充していくために平成22年に農事組合法人を設立した。

(3) 法人化後の評価(良かった点等)

- 農地の集積率が85%と高くなり，集落内で地域の担い手として認められている。
- 新しい品種等に積極的にチャレンジできる環境を作ることができた。

3 今後，将来に向けてのビジョン等(現時点)

(1) 将来ビジョンと経営戦略等

- 今後は，地域の若い人を雇用し，新しい作目にチャレンジしてもらうなど，ヒトづくりも進めていきたい。
- これまで同様に顔の見える農作物づくりを心がけ，新品種の活用や地元で作った安全な農作物にこだわっていきたい。

(2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

- 雇用を拡大していくため，農業高校や農業大学校にPRしている。
- 小麦新品種「夏黄金」やもち性大麦品種の「ホワイトファイバー」を栽培。

(調査：石巻農業改良普及センター)

略図



農事組合法人 舟形アグリ

〒986-0132
石巻市小船越字舟形71
TEL 0225-62-0911 (FAX兼用)
E-mail f-aguri@tois.ne.jp

視察受入条件

受入可(ただし農繁期は除く)
石巻農業改良普及センターまでご連絡ください。